

## 徳島大学大学院理工学研究部総合技術センターの現状について

徳島大学大学院理工学研究部総合技術センター 副センター長 小田 育稔  
ものづくり分野長 玉谷 純二

### 1. はじめに

平成 28 年 4 月 1 日、これまでの徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部総合技術センターは、工学部等の改組に伴う大学院ソシオテクノサイエンス研究部の改組により、大学院理工学研究部と大学院生物資源産業学研究部が設置され、大学院理工学研究部の附置センターとして徳島大学大学院理工学研究部総合技術センターは発足しました。今回は、これまでの経緯と現状について報告します。

### 2. これまでの経緯について

いまの組織になるまでの経緯を表-1 (<http://www.tech.tokushima-u.ac.jp/info/info-04.html>) に示す。

表-1 これまでの経緯

平成 6 年 10 月	徳島大学工学部技術部発足 物質工学系（化学応用工学科，生物工学科） 生産開発工学系（建設工学科，機械工学科） システム工学系（電気電子工学科，知能情報工学科，光応用工学科）
平成 13 年 4 月	徳島大学工学部技術部（組織見直し） 物質材料工学系 マクロ制御工学系 機能システム工学系 情報システム工学系
平成 18 年 4 月	徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部総合技術センター発足 分析・解析技術分野 設計・製作技術分野 計測・制御技術分野 情報システム技術分野 運営・管理支援分野
平成 28 年 4 月	徳島大学大学院理工学研究部総合技術センター発足 分析分野 ものづくり分野 計測制御システム分野 情報システム分野 運営管理分野

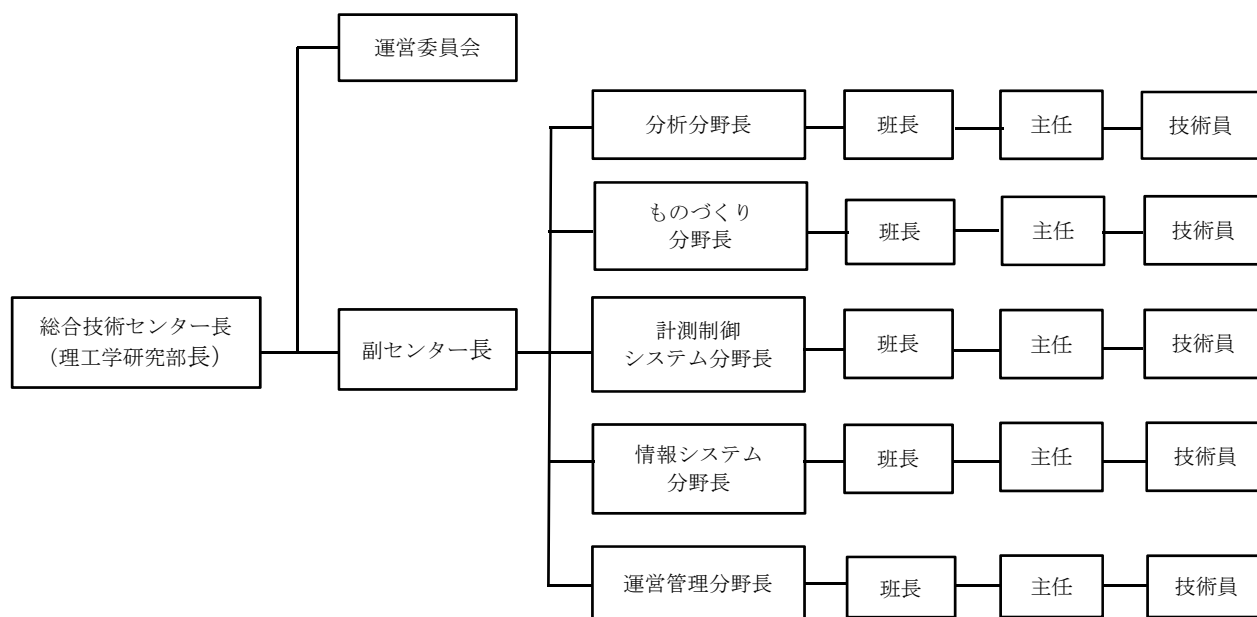
工学部技術部が発足するまでの技術職員の運用形態は、それぞれの学科等に所属し、所属学科等の教育研究支援にあっていた。技術部発足後も従来通りの運用が行われていた。

平成 18 年 4 月の大学院重点化による改組では、これまでの大学院工学研究科を改組し、教員と技術職員が所属する大学院ソシオテクノサイエンス研究部、及び大学院生が所属する先端技術科学教育部が設置され、技術職員は技術職員組織として組織運営を行うために、所属学科から離し、学科別による組織作りでなく、各技術職員の専門知識・専門分野による組織作りを行い、大学院ソシオテクノサイエンス研究部の附置センターとして、大学院ソシオテクノサイエンス研究部総合技術センターが発足した。また、工学部の学部学生及び事務部は工学部に属することになった。

### 3. 現状について

今回の改組に伴い、総合技術センターも組織の見直しを行い、大学院理工学研究部総合技術センターとして新たに発足した（図－1（<http://www.tech.tokushima-u.ac.jp/info/info-02.html>））。今回の改組では、大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部自然科学分野と環境創生科学分野（総合科学部）に所属していた技術職員が総合技術センターに異動することになった。なお工学部生物工学科と総合科学部環境創生科学分野が再編され、大学院生物資源産業学研究部及び生物資源産業学部が新設されたが、技術職員がこれまで担当していた教育研究支援は引き続き行っている。

大学院理工学研究部、理工学部、大学院生物資源産業学研究部及び生物資源産業学部の概要については、ホームページ（<http://www.tokushima-u.ac.jp/>）を参照されたい。



図－1 徳島大学大学院理工学研究部総合技術センター組織図

### 4. 今後の展望

全国的に技術職員組織の全学化が行われてきており、本学も近い将来、医学部等がある蔵本地区の技術部を含めた全学組織となる日が来るかもしれない。その日のためにも、組織の構成員である技術職員全員が日々技術を磨き、より良い教育・研究支援と組織運営を行っていくことが望まれると考える。

**謝辞：**今回初めて、四国地区内の技術職員間交流事業として愛媛大学工学部等技術部技術発表会に参加させていただきました。快く受け入れていただきました愛媛大学工学部等技術部の皆様に、御礼申し上げます。

また、本技術発表会には、徳島大学日亜化学工業教育研究助成基金により参加させていただきました。ここに謝意を表します。